

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393500016		
法人名	有限会社 桜花		
事業所名	グループホームさくらそう A棟		
所在地	岡山県苫田郡鏡野町小座424-1		
自己評価作成日	平成23年9月29日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3393500016&amp;SCD=320&amp;PCD=33">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3393500016&amp;SCD=320&amp;PCD=33</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成23年10月12日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・明るい生活空間で落ち着ける環境づくりと専門性の高いスタッフのサービスをしている。</li> <li>・又、畑があり自然とふれる機会を多くできるようにしている。</li> <li>・入所しても家族本人の思いや絆を大切に家族とのかかわりを続けていけるようにしている。</li> <li>・地域との交流を大切に地域とふれあう機会を重視している。</li> <li>・ターミナルケアを希望があれば受け入れる配慮をしている。</li> </ul>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームの名称はさくらそう、地面にしっかりと群がってサクラのような花を咲かせる野草が、鏡野町のこの地に年々大きな群れをなして咲き乱れるようになった。田圃と山裾から成るこの地の色と空気をこのホームに居ると感じる。18人の利用者と21人の職員が一人ひとりの個性を活かしながらホーム全体として笑顔あふれ、個々の力を活かして楽しく生活している様子は野に咲く「さくらそう」のような一つの家庭(家族)を形成していると思った。</p> <p>このホームで最も大切にしている事は、利用者や家族の意向や気持ちを知り、それに沿ったサービス提供やそれぞれの生活を楽しくしてもらおう姿である。それが具体的に介護計画や日常の介護記録の中に具体的に表れ、職員が利用者の心を知ろうとする意欲を汲み取ることができる。まだ努力する余地はあるが、母体の会社「桜花」、この小さな草花がやがては大きな桜の大木となり、立派な花を咲かせるよう今後に期待できる。</p>
--

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> <li>開設以来の基本理念があり、それをリビングに掲示している。</li> <li>理念に基づいて実践している。</li> </ul>	地域との繋がり、利用者のニーズの把握の理念に向って、介護記録の改善や地域団体との話し合い等の試みを強力に継続しているとしている。	理念の実現は、書かれた文章でなく、次項から21項にある各項目を軽重はあるが、どれだけ確実に前進できたかにかかっているという認識を持ってもらいたい。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の行事への参加に小学校の運動会の見学、清掃活動。(22・目標計画継続)</li> </ul>	地域行事に参加する、ホーム行事に参加してもらうことで相互の理解を深めている。介護相談窓口の役割を担い、近所の人から立ち寄ってホームの内容を聞いたり、介護相談を受ける等、前進している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>散歩や地域の行事に参加して、地域の人々の理解を得ている。</li> <li>地域の人々と出会いの場を作っている。</li> </ul>		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>2カ月に一度実施している。</li> <li>地域の参加者の意見を大切にしている。</li> <li>充実した会議になるよう働きかけをしている。</li> </ul>	民生委員、地区長、駐在員、町会議員等、その時のテーマによって関連ある人が随意参加され、福祉情報の提供や防災について話し合わせ、家族からは行事や日常生活についての感想等述べられている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>日頃からの出会いの場を大切にしている。</li> <li>入退所、事故処理等の報告、日頃の様子を伝え、協力関係を作っている。</li> </ul>	包括支援センター主催のテーマ別の研修会や困りごとの相談等、ホームに対する支援が行き届き、ホーム側はターミナルケアについても自信を持って取り組めるようになったと喜んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設内外は施錠を行っていない。</li> <li>身体においては拘束をしない方法や援助の仕方を常に伝達して実行している。</li> </ul>	事例研修や勉強会で共通認識しているが、腰にベルトを掛ける行為はどうか等、日常の業務の中で起きた事例で質問がある時は、全員で話し合い、正しい理解に繋げるようにしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>どのような事が虐待になるのか、研修会に参加して把握してもらいスタッフに伝達している。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・勉強会の中で具体的に伝達している。 ・必要性がある方については家族から報告を受けている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居時契約の際すべての内容に説明して理解してもらっている。 ・納得されていれば署名押印をしてもらう。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議で利用者家族の意見を聞いている。	訪問時には、壁に貼った行事の写真を見ながら感想を聞いたり、「さくら便り」を活用し、利用者の日常を理解してもらう。運営会議でも意見や感想を述べてもらう場を提供している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月職員会議を開き意見を求めている。 ・年一回はスタッフと面接を行い意見を求めている。	代表者は、職員間の動きがより良くなるよう職員と一緒に行動し、自然体で良くコミュニケーションしている。職員一人ひとりと面接して、ニーズを掴み、職員間の融和にも努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・有資格者や役職者は給料が優遇されるので積極的に取得できるよう配慮している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・町からの研修会の参加、ホーム協会研修会、独自の研修会、個々に合った研修会に参加してもらい発表の場を設けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・同業者の見学を実施予定にしている。 ・同業者との交流を持ち、意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所者に対して入所しなければならない心境を受け止めて誠心誠意の対応をしていく。共同生活の不安を解消できるよう寄り添う。 ・家族の精神的支援も配慮している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・初回の家族との出会いを大切にしている。 ・今までの介護の苦労を労い、入所時の家族の要望を聞きながら家族の役割や協力していただくことの大切さを求めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人と家族が離れていく心境を受け止め入所の不安を解消できるよう努め職員全員が快く対処できるようにしている。 ・家族との信頼関係を考慮している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・常に同じ目線で接し共に生活していく我が家として住み心地のよい「自分の家みんなの家」という精神で職員も自然に接している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族と本人の絆を大切にしている。 ・家族の顔や思い出を忘れないよう工夫や気配りをしている。家族の出会い場면을大切にしている。常に家族しか出来ない事や思いを伝える事を工夫している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・地域の方や友人の方が面会に来られても気持ちよく対応できるよう本人に気配りをしている。	職員は、必要あれば家族や訪問者と利用者のとり持ちを果たしたり、個室を提供する事もある。リビングでは、利用者同士の席の配置にも気配りし、良い関係作りに努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・孤立を防ぐため常に平等に接して利用者同士笑顔が見える場面を作り出すようコミュニケーションを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約が終了しても家族に満足して頂けたかどうかを大切にしている。</li> <li>・その後も交流が出来るよう努めている。</li> </ul>		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの個性を尊重して本人らしく生活してもらう事を重視している。</li> <li>・本人の思いを引き出し本人の立場に立ち検討している。(22・目標計画達成)</li> </ul>	『私の姿と気持ちシート』で利用者の意向や思いを把握し、職員が共有してケアに当たっている。「若い時頑張っていた事を認めて欲しい、おしこの失敗が辛い」等、切実な気持ちを理解している。	認知症ケアは相手の気持ちを知ることが一番大切であり、色々な場面や関わり合いを通して利用者の心を察知する努力を続けている自己評価内容が見受けられた。今後も限りなく深化していったらいい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活歴、地域のつながりを職員に理解してもらい、入居の経緯思いも把握して対応している。</li> <li>・よりよいサービスのため努力している。</li> </ul>		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日一日を生き生き活気のある笑顔がみえるよう過ごせるよう自立支援をしている。</li> <li>・一人一人の過ごし方で今日は良かったと思える過ごし方の自立支援をしている。</li> </ul>		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人を中心とした家族、職員で話し合いをすることや日々の課題を話し合っ意見をもとめて反映し現状に即した介護計画を作成している。(21・目標計画継続)</li> </ul>	介護計画書は、これまでのケアで不足していた課題を目標達成計画に掲げ、職員間で優先的に改善に取り組んだ結果、介護記録等も簡潔なものとなり、利用者のニーズに沿った計画作成が出来るようになった。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別記録を実践に活かされるよう協力をしている。</li> <li>・連絡帳でのこまかい情報を共有できるようになっている。</li> </ul>		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人家族のニーズの高い場合も積極的に話し合い出来る限り受け入れる姿勢をとっている。</li> <li>・職員のチームワークで可能になっていることもある。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域に密着したや学区の子供達の活動を受けたり、地域の行事に参加をして地域の中で暮らしていると感じる支援をしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・家族の希望を第一とし納得のいく医療を受けてもらう。施設の主治医として信頼あるDrの適切な指導を受けて安心ある生活をしている。	契約医が2週に1回往診がある。看護師は介護記録に基づいて、適切な診療が行えるように支援している。医師との連携が密に行われ、本人や家族は安心している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・利用者の少しの変化、異変の気づきを素早く見極め、ナースに伝え相談しながら適切な処置ができるよう連携をもって支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入退院時、病院関係者と連携を保ち、退院時は早期回復できるようケアカンファレンスを行い家族、本人、スタッフとの関係を大切にして退院準備をしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・職員自らが研修を受け、スキルアップを身に付け残された終末期を家族と共に過ごせるよう介護員の質の高いケアで支援している。	ターミナルケア研修受講により、自信を持って実践できているようだ。ターミナルの方に面会した。職員の度々の見守りと、他の利用者が時折、廊下から励ましの声掛けをされる。落ち着いた笑顔で合掌され、感謝の意を表している。人間としての美しい姿を見せてもらった。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・看護職による応急手当、初期対応の実技指導や医療について情報や勉強を行い緊急時に備えている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・全職員が周知できるよう定期的な避難訓練をしている。 ・地域との協力をお願いしている。	運営推進会議上でも毎回のように討議され、多くの意見が出されている。今後も地域との連携が図れるよう運動を継続していく方針である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに対し家に居るのと同じような生活が送れるよう生活リズムを整える。	特にトイレ、入浴に対しては、同性の対応、慣れた人の対応、失敗を誇張しない等、利用者の辛さや羞恥心への配慮は、職員に徹底されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけにより、利用者との会話を増し、本人が意思を表現しやすくする。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを持ちつつ、その日本人がしたいと思うことは本人と相談しつつ実現している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔時鏡を見てもらい、自分を意識していただく。 家で使用した化粧品は使用してもらう。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	次の食事のメニューを教えて調理の見学や参加をしてもらう。	食事はゆとりを持って楽しんでもらおうと、職員は30分間席を立たないように、ゆったりとした雰囲気作りを行っているユニットもあった。アイスを皆で食べに出て、近年最大のイベントとして楽しんだ。皆楽しく会話も弾んだ食事風景である。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事量を見出し用意している。 コップ等で水分量が分かるようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後、毎食後、就寝前、口腔ケアを行っている。 出来るだけ自力ですよう促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>各利用者の排泄リズムを把握し、又、動きを察知し、トイレ誘導などを行う。</li> </ul>	布パンツ使用に固執される利用者にも、早目の対応にて失敗を少なくし、少しでも気持ちの良い暮らしが出来るよう、様々な利用者の状態に合わせた個別の対応を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝礼時、各利用者の排便の様子を確認しあい、的確な排便リズムをつかむ。</li> <li>コーヒー、牛乳、お茶等しっかり水分を飲用して頂く。</li> </ul>		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>入浴前にバイタルチェックを行う。</li> <li>一日おきの入浴方式をとっている。</li> <li>入浴の声かけをするも拒否ある利用者は翌日の入浴とする。</li> </ul>	困難な事情を持つ人もあるため、無理強いや過度に賑やかさないこと、声掛けには混乱をきたさないように配慮する等、安心して入浴してもらえる支援を行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者のペースに合わせ、起床、就寝、昼寝等をして頂く。</li> <li>室温、換気等確認をする。</li> </ul>		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>服薬チェック表にて服薬確認をする。</li> <li>処方箋ファイルに一人ひとり綴じ、介護員がいつでも見られる場所に置いてある。</li> </ul>		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>洗濯物たたみや野菜の皮むき等出来る事をスタッフと共に行っている。</li> </ul>		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当スタッフを決め、散歩、花見、外食、小学校の運動会等外出できる機会を作っている。又、昔居住していた地区にも出来るだけ出かける支援をしている。</li> </ul>	身体機能低下に伴い、全員の外出は困難。一対一の車椅子で周辺の散歩は日常的に行っている。全員でアイスを食べに外出した事があり、利用者と職員間のホットな話題となっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・本人の所持したい物品、好物、食べたい物を聞き、スタッフと一緒に食べに行く等の支援をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・利用者が不穏になり、家に電話をしたいと言った時等はすぐ家族に電話をつないで直接本人と会話してもらう。 (そうする事により落ち着いてこられる)		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・生活空間が快適に過ごせるように温度、採光、換気に配慮している。 ・不快な湿度の時、穏やかなリズムの音楽を流すようにしている。 ・又季節感がある空間を作り居心地よくしている。	自然環境に恵まれ、開放された窓から収穫を終えた田園が心地良く見渡せる。身体状況に合わせた机や椅子の調整や単独で過ごした人の居場所の設定等、思い思いの過ごし方への配慮があった。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共用空間でも一人ひとりの個性を大切に生活場所になっている。 ・一人机、ソファー、畳コーナー等リラックスでき静かに過ごせるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室は使いなれた好みのものを活用するようにしている。 ・寝具も畳、ベッドがありその人の暮らしに活用できるようにしており落ち着いて休んで頂けるようにしている。	個々の居室は、職員と一緒に写真や作品を飾ったりして暖かさを感じた。居室での転倒防止策は最大限に取り組んで欲しい。ベッド、タンス等、家具の配置、活用も考慮が欲しいものです。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・車椅子の場合でもトイレまでは自力で行って頂き、移乗を介助で行う。 ・自由に運動できるようにしている。 ・洗濯物たたみ、テーブル拭きなどすすんでしてもらう。		

[本文へ](#) [2]



岡山県 介護サービス情報公表システム

 **しおり付き事業所はありません**  




## 介護サービス情報（基本情報）


基本情報は、事業所が記入した報告内容をそのまま表示します。

調査日：平成22年8月12日 公表日：平成22年9月30日 更新日：平成22年9月30日

事業所番号/名称	住所/その他
名称：グループホームさくらそう 介護サービス：認知症対応型共同生活介護 事業所番号：3393500016	岡山県苫田郡鏡野町小座424-1 郵便番号：708-0363 電話：0868-54-5002 ファクス：0868-54-5003
調査票様式：平成22年度様式	計画年度：平成22年度

 **しおりを付ける** 「しおり」を付けて、現在、ご覧の介護サービス情報を、「しおり付き事業所一覧」ページに、一時的にメモすることができます。なお、ブラウザを閉じた場合、「しおり」は保存されません。

現在、ご覧のページをWebブラウザへ登録

 **お気に入りに追加** 「お気に入りに追加」ボタンは、Windows版のInternet Explorer (IE)のみで登録できます。

[http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?  
JCD=3393500016&SCD=320&PCD=33](http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3393500016&SCD=320&PCD=33)

## 基本情報

## ※ 調査情報

		記入年月日	平成22年7月12日
記入者名	三村 和弘	所属・職名	取締役

## 1. 事業所を運営する法人等に関する事項

法人等の名称、主たる事務所の所在地及び電話番号その他の連絡先			
法人等の名称	法人等の種類	営利法人 (その他の場合、その名称)	
	名称	(ふりがな) ゆうげんかいしゃ おうか 有限会社 桜花	
法人等の主たる 事務所の所在地	〒708-0363		
	岡山県苫田郡鏡野町小座424-1		
法人等の連絡先	電話番号	0868-54-5002	
	FAX番号	0868-54-5003	
	ホームページアドレス	なし	
法人等の代表者の 氏名及び職名	氏名	三村 定子	
	職名	代表取締役	
法人等の設立年月日	平成19年10月1日		
法人等が当該都道府県内で実施する介護サービス			
介護サービスの種類	か所数	主な事業所等の 名称	所在地
< 居宅サービス >			
訪問介護	なし		
訪問入浴介護	なし		
訪問看護	なし		

訪問リハビリテーション	なし			
居宅療養管理指導	なし			
通所介護	なし			
通所リハビリテーション	なし			
短期入所生活介護	なし			
短期入所療養介護	なし			
特定施設入居者生活介護	なし			
福祉用具貸与	なし			
特定福祉用具販売	なし			

## &lt; 地域密着型サービス &gt;

夜間対応型訪問介護	なし			
認知症対応型通所介護	なし			
小規模多機能型居宅介護	なし			
認知症対応型共同生活介護	あり	1	グループホーム さくらそう	鏡野町小座424-1
地域密着型特定施設入居者生活介護	なし			
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	なし			

## 居宅介護支援

## &lt; 介護予防サービス &gt;

介護予防訪問介護	なし			
介護予防訪問入浴介護	なし			
介護予防訪問看護	なし			
介護予防訪問リハビリテーション	なし			
介護予防居宅療養管理指導	なし			
介護予防通所介護	なし			

介護予防通所リハビリテーション	なし			
介護予防短期入所生活介護	なし			
介護予防短期入所療養介護	なし			
介護予防特定施設入居者生活介護	なし			
介護予防福祉用具貸与	なし			
特定介護予防福祉用具販売	なし			

< 地域密着型介護予防サービス >

介護予防認知症対応型通所介護	あり	1	グループホーム さくらそう	鏡野町小座424-1
介護予防小規模多機能型居宅介護	なし			
介護予防認知症対応型共同生活介護	なし			
介護予防支援	なし			

< 介護保険施設 >

介護老人福祉施設	なし			
介護老人保健施設	なし			
介護療養型医療施設	なし			

2. 介護サービスを提供し、又は提供しようとする事業所に関する事項

事業所の名称、所在地及び電話番号その他の連絡先

事業所の名称	(ふりがな)ぐるーぷほーむさくらそう グループホームさくらそう		
事業所の所在地	〒708-0363		
	岡山県苫田郡鏡野町小座424-1		

事業所の連絡先	電話番号	0868-54-5002
	FAX番号	0868-54-5003
	ホームページアドレス	なし
介護保険事業所番号	3393500016	
事業所の管理者の氏名及び職名	氏名	三村 定子
	職名	代表取締役
事業の開始年月日若しくは開始予定年月日及び指定若しくは許可を受けた年月日（指定又は許可の更新を受けた場合にはその直近の年月日）		
事業の開始（予定）年月日	平成18年5月1日	
指定の年月日	平成18年5月1日	
指定の更新年月日（直近）		
生活保護法第54条の2に規定する介護機関の指定の有無	なし	
事業所までの主な利用交通手段		
中国道院庄インターより、北へ4km（R179）		

### 3. 事業所において介護サービスに従事する従業者に関する事項

#### 職種別の従業者の数、勤務形態、労働時間、従業者1人当たりの利用者数等

実人数	常勤		非常勤		合計	常勤換算人数
	専従	非専従	専従	非専従		
管理者	0人	2人			2人	2人
計画作成担当者	0人	2人	0人	0人	2人	2人
介護職員	12人	0人	8人	0人	20人	16人
看護職員	0人	1人	0人	0人	1人	1人
その他の従業者	0人	0人	0人	0人	0人	0人

1週間のうち、常勤の従業者が勤務すべき時間数	40時間
------------------------	------

常勤換算人数とは、当該事業所の従業者の勤務延時間数を当該事業所において常勤の従業者が勤務すべき時間数で除することにより、当該事業所の従業者の人数を常勤の従業者の人数に換算した人数をいう。

従業者である計画作成担当者が有している資格

延べ人数	常勤		非常勤	
	専従	非専従	専従	非専従
介護支援 専門員	0人	2人	0人	0人
夜勤・宿直 を行う従業 者の人数	夜勤			2人
	宿直			0人
管理者の他の職務との兼務の有無				あり
管理者が 有してい る当該報 告に係る 介護サー ビスに係 る資格等	あり	(資格等の名称) 看護師 介護福祉師		

介護従業者 1人当たりの利用者数	1人
------------------	----

従業者の当該報告に係る介護サービスの業務に従事した経験年数等

区分	計画作成担当者		介護従業者	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤
前年度1年 間の採用者 数	0人	0人	3人	0人
前年度1年 間の退職者 数	0人	0人	4人	0人
業務に従事 した経験年 数				

1年未満の者の人数	0人	0人	2人	1人
1年～3年未満の者の人数	0人	0人	5人	0人
3年～5年未満の者の人数	2人	0人	5人	7人
5年～10年未満の者の人数	0人	0人	0人	0人
10年以上の者の人数	0人	0人	0人	0人

従業者の健康診断の実施状況

あり

## 4. 介護サービスの内容に関する事項

## 事業所の運営に関する方針

認知症により自立した生活が困難になった利用者に対し家庭的な環境のもと日常生活の介護を通じて、安心と尊厳のある生活を営むことお支援いたします。

## 介護予防および介護度進行予防に関する方針

-

## 介護サービスの内容、入居定員等

夜間ケア加算（介護報酬の加算）の有無	なし
認知症行動・心理症状緊急対応加算（介護報酬の加算）の有無	なし
若年性認知症利用者受入加算（介護報酬の加算）の有無	なし
看取り介護の実施（介護報酬の加算）の有無	あり
医療連携体制加算（介護報酬の加算）の有無	あり
退居時相談援助加算（介護報酬の加算）の有無	なし
認知症専門ケア加算（Ⅰ）（介護報酬の加算）の有無	なし



認知症専門ケア加算（Ⅱ）（介護報酬の加算）の有無	なし		
サービス提供体制強化加算（Ⅰ）（介護報酬の加算）の有無	なし		
サービス提供体制強化加算（Ⅱ）（介護報酬の加算）の有無	なし		
サービス提供体制強化加算（Ⅲ）（介護報酬の加算）の有無	なし		
入居定員	2ユニット		18人
介護サービスの提供内容に関する特色等	施設の周囲の自然環境、歳時記に合わせた年中行事、季節感の味わえる室内装飾、充実した介護スタッフの「気配り」「目配り」「心配り」、ナースの常駐による医療管理		
利用に当たっての条件	町内在住・要介護認定、要支援2以上・認知症の診断・		
退居に当たっての条件	死亡・2ヶ月以上の入院・集団生活が困難・他施設への転所		
短期利用共同生活介護の提供の有無	なし		
共用型指定認知症対応型通所介護の提供の有無	なし		
協力医療機関の名称	鏡野病院		
（協力の内容） 緊急時の診察・入院			
協力歯科医療機関	あり	その名称	平歯科
（協力の内容） 歯科治療			
医療連携体制の状況（看護師の確保方法）	職員として配置		
	契約先の名称		
バックアップ施設の名称	老人保健施設 虹		
（協力の内容） やむなく入院し、退院後、入居が困難とみなした場合の受け入れ要請			

## 運営推進会議の開催状況

（前年度1年間の開催実績）

3回

（参加者人数）

30人

（協議内容等）

ホームの近況報告、今後の課題、地域との連携

地域・市町村との連携状況

社会福祉協議会・生活支援センター・居宅施設・鏡野町福祉課

## 認知症対応型共同生活介護の入居者の状況

## 入居者の人数

区分	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
65歳未満	0人	0人	0人	0人	0人	0人
65歳以上75歳未満	0人	0人	0人	0人	0人	0人
75歳以上85歳未満	2人	3人	3人	1人	0人	9人
85歳以上	0人	1人	3人	5人	0人	9人

入居者の平均年齢

70.9歳

入居者の男女別人数

男性

6人

女性

12人

入居率（一時的に不在となっている者を含む）

100%

## 前年度の認知症対応型共同生活介護を退居した者の人数

退去先	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
自宅等	0人	1人	0人	0人	0人	1人
介護保険施設	0人	0人	0人	0人	0人	0人
特別養護老人ホーム以外の社会福祉施設	0人	0人	0人	0人	0人	0人
医療機関	0人	0人	0人	0人	0人	0人
死亡者	0人	0人	1人	1人	1人	3人

その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人
-----	----	----	----	----	----	----

## 入居者の入居期間

入居期間	6か月未満	6か月以上 1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上
入居者数	3人	2人	7人	6人	0人	0人

## 介護サービスを提供する事業所、設備等の状況

建物形態	併設型					
建物構造	平屋造り1階建ての1階部分					
広さ等	敷地面積		延床面積		1室当たりの居室面積	
	1,099.08m <sup>2</sup>		564.82m <sup>2</sup>		10m <sup>2</sup>	
二人部屋の有無	なし					
共同便所の設置数	男子便所	0か所	うち車いす等の対応が可能な数			0か所
	女子便所	0か所	うち車いす等の対応が可能な数			0か所
	男女共用便所	4か所	うち車いす等の対応が可能な数			4か所
個室の便所の設置数	0か所		個室における便所の設置割合			0%
			うち車いす等の対応が可能な数			0か所
浴室の設備状況						
浴室の総数			2か所			
個浴	大浴槽		特殊浴槽	リフト浴		
2か所	0か所		0か所	0か所		
その他の浴室の設備に関する事項			椅子型全身シャワー			
居間、食堂、台所の設備状況	IHヒーター					
入居者等が調理を行う設備状況					あり	

その他の共用施設の設備状況					
なし		(その内容)			
バリアフリーの対応状況					
(その内容) 居室、リビング等、敷居なし					
消火設備等の状況			あり：消火器、火災報知機		
緊急通報装置の設置状況			各居室内にあり		
外線電話回線の設置状況			一部あり		
テレビ回線の設置状況			各居室内にあり		
事業所の敷地に関する事項					
敷地の面積				1,099.08m <sup>2</sup>	
事業所を運営する法人が所有				あり	
抵当権の設定				あり	
貸借（借地）					
なし	契約 期間	始		終	
契約の自動更新					
事業所の建物に関する事項					
建物の延床面積				564.82m <sup>2</sup>	
事業所を運営する法人が所有				あり	
抵当権の設定				あり	
貸借（借家）					
なし	契約 期間	始		終	
契約の自動更新					
利用者等からの苦情に対応する窓口等の状況					
窓口の名称		苦情受付窓口			

電話番号	0868-54-5002		
対応している時間	平日	9時00分～17時00分	
	土曜	9時00分～17時00分	
	日曜	9時00分～17時00分	
	祝日	9時00分～17時00分	
定休日	なし		
留意事項			
介護サービスの提供により賠償すべき事故が発生したときの対応の仕組み			
損害賠償保険の加入状況			あり
利用者等の意見を把握する体制、第三者による評価の実施状況等			
利用者アンケート調査、意見箱等利用者の意見等を把握する取組の状況			
あり	当該結果の開示状況		なし
地域密着型サービスの評価の実施状況			
あり	実施した直近の年月日		平成21年8月20日
	実施した評価機関の名称		ライフサポート
	当該結果の開示状況		あり

## 5. 介護サービスを利用するに当たっての利用料等に関する事項

利用料等（入居者の負担額）			
家賃（月額）	47500円		
敷金	なし	0円	
保証金の有無 （入居時一時金）	なし	保全措置の内容	
	円	償却の有無	なし
食材料費	あり	朝食	200円
		昼食	400円
		夕食	400円

		おやつ	100円
		又は1日	0円
その他の費用			
理美容代	なし		0円
算定方法			
おむつ代	なし		0円
算定方法			
その他（-）	なし		0円
算定方法			
その他（-）	なし		0円
算定方法			
その他（-）	なし		0円
算定方法			

Copyright ©2008 Prefectural Government. All rights reserved.